

弥生土器をつくろう！ ① 弥生時代前期編

弥生時代は紀元前6世紀頃から紀元3世紀頃までのおよそ900年間続きました。その長い年月の間に使われた土器の形が大きく変化していきます。

弥生時代の土器のうち、主に穀物を貯蔵したり、水をくんだりする用途に使われた「壺」がペーパークラフトになりました。時代による形と文様の変化を、ペーパークラフトを通じて感じてみて下さい。



弥生時代前期の壺 紀元前3世紀頃

弥生時代のはじめ、稲作文化とともに西日本全体で同じような形の土器が広がりました。北部九州の地名から「遠賀川式」とも呼ばれます。



表面を黒く仕上げた壺

※写真はすべて唐古・鍵遺跡出土

弥生時代前期の壺は、比較的短い口縁部と、頸部・胴部に3条前後のへら描き沈線で飾るものが典型的です。通常は茶色い仕上がりですが、表面を黒く仕上げるものもあります。一部の土器にはへらで木葉状の文様を刻むものがみられるほか、黒色に仕上げた土器には赤色顔料で木葉文を描くことがあります。



へらで木葉文を刻んだ壺



赤色顔料で木葉文を描いた壺

※ペーパークラフトのデータは、

- ① ノーマル（無文）のカラープリンター用データ
 - ② ノーマルの茶色い紙用のモノクロデータ
 - ③ へら描き木葉文の描かれたカラープリンター用データ
 - ④ へら描き木葉文の描かれた茶色い紙用モノクロデータ
 - ⑤ 黒地に赤色顔料で木葉文を描いたカラープリンター用データ
 - ⑥ 用紙2枚用に拡大した⑤のカラープリンター用データ
- の計6種があります。

※モノクロデータは、茶色い封筒などをA4サイズに切ってモノクロ設定で印刷してください。